

第568号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2016年 7月15日
 発行責任者 喬木村公民館長 穂積 美穂
 編集責任者 公民館編集部 長 志 仲田 久志
 印刷 龍共印刷株式会社

公民館楽遊塾 第二講座

村内めぐり

六月十九日(日)、公民館楽遊塾第二講座「村内めぐり」が行われました。まず、村外へ少し出て「神之峰」山頂まで登りました。神之峰は、上久堅にある標高771mの山城址です。山頂からの眺望はすばらしく、眼下には天竜川と飯田市街を一望することが出来、更に足下には今回の「村内めぐり」の主となる三遠南信自動車道の一部を見ることができました。

氏乗に戻る途中、上久堅にある北田遺跡に立寄りました。北田遺跡は、縄文時代から古墳時代まで、およそ四千五百〜千三百年前の大集落遺跡です。復元された竪穴式住居の中に入ると縄文時代にタイムスリップ

したような気分になりました。氏乗へ戻り、「田舎道」でのお買物です。安くて新鮮な野菜など、皆さん買い物がゴいっばいに買われていました。朝採りのとうもろこしは、あつという間に完売してしまいました。田舎道からは氏乗地区の区長さんが同行してくださり、三遠南信自動車道の氏乗IC、取付け道路の仮橋、クラインガルテンの見学の際、詳しく説明をしていただきました。三遠南信自動車道は、ポイント、ポイントで着々と工事が進んでいて、完成すれば様変わりしていくであろう氏乗地区に思いを馳せながら説明をお聞きしました。

お昼は、氏乗集落センターにて、氏乗地区公民館の皆さんが用意してくださった五平餅、サラダ、夏野菜のみそ汁

イツで盛んな農地の貸借制度で、ここ氏乗地区でも農地の横に住居を併設し、五棟がひとまとまりになり一つのコミュニティを形成するようになっていきます。氏乗地区の方々と同地区の行事への参加を通じて交流が

計られていて、しっかりとしつかりとした取組みをされていることに感心いたしました。

お昼は、氏乗集落センターにて、氏乗地区公民館の皆さんが用意してくださった五平餅、サラダ、夏野菜のみそ汁



三遠南信自動車道取付け道路の仮橋にて

をいただきました。とても美味しく、皆さん持ち帰ることなく完食されていました。

梅雨の晴れ間、時々通り雨はあったものの何とか無事に「村内めぐり」を終えることができました。最後に氏乗地区の正副分館長様、婦人部の皆様の御協力に感謝申し上げます。

(教養部)

映画 「望郷の鐘 満蒙開拓団の落日」を観て

今年度第一回の平和学習会は、自らも満州へ渡り過酷な体験をし、帰国後は残留孤児達の肉親探しに力を尽くされた阿智村の長岳寺住職 山本慈昭さんの生涯を描いた望郷の鐘 満蒙開拓団の落日の上映会を行いました。

当日は村内外から八十名ほどの方にご参加いただきありがとうございました。慈昭さんは敗戦の三ヶ月前に教師として満州へ渡ります。三つの村の村長さんから懇願され、国策というところもあって断り切れなかったのだと思います。

開拓団として満州へ渡った人達も、満州へ行けば広い土地にそれぞれ曳出しました。途中の明神社参道入口で落ち合い、神社に向かいました。昭和十五年より櫓を使っています。その昔は荷車・修羅とコロ・リヤカーに乗せて御柱を曳出したそうです。

地が手にはいるという宣伝文句の下、政府の満州統治の政策に組み込まれていったわけですが、それを拒否することは難しかったのではないかと思います。開拓団の皆さんは、ソ連軍の侵攻に伴い、大変な被害を受け苦勞されるわけですが、中国人にとっては自分たちの大切な土地を奪った加害者でもあったわけですね。

敗戦の色が濃くなった時、関東軍は自分たちが逃げる時間を確保するため、橋を爆破し、開拓団の人達を置き去りにします。それによつてとれだけの犠牲が出たのか、中には逃げ切れないと思つて自決した開拓団も多かったといひます。慈昭さんは「死ぬのはいつでも出来る。生きられるだけ生きるんだ」と勇気づけながら、みんな「君が代」ではなく「ふるさと」を歌つて、分かれて逃げるのですが、最後は捕虜となり、家族とも引き裂

うです。明神社本殿前に御柱が到着と同時に花火を打ち上げました。神官よりお祓いをしていただき、植栽をして、参加者に紅白の饅頭が配られ、お開きとなりました。今年は大勢(二百五十人位)の参加者がありました。道中はふるまい酒をいただきながら、綱を引く人・御幣をかざす人・木遣りを唄う人にてぎやかに盛大にできました。

シベリア抑留を経て自分だけが帰国した時の慈昭さんの思いはどんなものだったのでしょうか。生き延びた自分ができることは何なのか考え、行方不明の開拓団員の名簿作りをする中、一通の手紙から残留孤児のことを知り、慈昭さんが生涯をかけた孤児達の肉親探しの取り組みが始まります。映画の中で少年が「僕たちは国に生まれたい」といつか「だます者」と言われた時、だまされなければ戦争は起きなかつた。二度と生まれたいようにしよう」と言つた慈昭さんの言葉は今の自分たちへのメッセージではないかと思

うです。最後に中国人に育てられた娘の冬子が無事に帰ってきた。二人で思い出のふかしたジャガイモを食べながら、「夕日はきれいだと思う人のものは、子供達が将来もこの夕日をきれいだと思うって見られる時代であつて欲しい。」という言葉が胸にしみました。二度と悲惨な歴史を繰り返さぬよう、私たち一人一人が平和を守る努力をしなければなりません。

これからの子供達の将来が平和であるために…。(平和学習会実行委員会)



望郷の鐘上映会

あの時

先日久しぶりに釣りに行つたら、おいかわが数匹と婚姻色になったウグイが十四ほど、ヤマメも十四ほど釣れました。溪流釣りは二月には解禁になります。若い頃は待ちかねて出かけたものですが、今はなかなか腰が上がりません。春の谷は何処も美しく、むせるような新緑の輝き、緑を映して落下する流れの飛沫、一番心を躍る時期です。雪代を集めて渦巻くよどみをめがけ竿を振ると、冬の間に腹を空かせた魚は同じ場所でも何匹も釣ることができ、一番釣りやすい時期でもあります。さびで黒っぽかった山女魚の体も雪代に洗われて鮮やかなパーマークを見せ始め、がくんと衝撃にあわせてスナップをきかせると、確かな手応えで元気に水中を暴れ回るその一瞬の快感、手応えが釣りの魅力なのです。夏の空は青く、水に踊る太陽のきらめき、すばらしい溪相で魚はいくらでも釣るはずなのに、この時期は朝まずめ夕まずめ以外はなかなか釣れなくなります。夏山女魚一里一匹とはよく言つたもので、動きが速くなり釣り人から狙われ続けた魚は非常に敏感になつていきます。

ただ多くの釣り人が鮎釣りに夢中の時期ですから、溪流を独占しやすい時期でもあります。山里の夏は短く八月に入るとすでに秋の気配を感じるようになります。涼風は次第に山全体を色づかせ、川底が色鮮やかな落ち葉で埋め尽くされるようになります。納竿の近いことを知ります。

溪流とすれば一番美しい時期なのですが、産卵の時期に入つた魚を釣るのがためらわれ、釣り人とすると一抹の寂しさを感じる時期でもあります。冬の間は釣りの本を読んだり竿を磨きながら春を待つのですが、それもまた楽しい時間です。

本格的に釣りを始めてもう四十年近くになりますが、釣りの極意は井伏鱒二が言う「山川草木に溶け込め」という言葉に尽きるのではないかと考えています。

北の明神社御柱祭

文化財保護委員 市瀬武文

今年七年に一度の御柱の年で、諏訪大社をはじめ、明神社を祀る地域では巨木を山から伐り出して、社殿の隅に立てる「柱立て」の行事が古式により実施されました。(御柱は地域によつて四本立ての所、二本立ての所、一本立ての所、生木を植える所等あります。)

北では今年の四月四日に御柱祭を自治会・年番氏子衆で行いました。明神社は喬木村公民館にあり、御柱は、柱立てが基本ですが、小自治会となった今では、柱の入手費用人力

の点で踏襲することは出来なかつたと考えられます。何時ごろからこの形式になったのか不明ですが、故人となられた諸先輩に当時お聞きした話では、木を植えておけば、将来その木が大きくなりなにかの足しになるのではないかと。また、実施した年は、大正九年・十五年・昭和七年・三十七年・四十四年・四十九年・五十五年・平成四年・十年・十六年・二十二年・二十八年のようです。

道中即興的に唄われる木遣りは、昔は十番位あったようですが、断片的に覚えていた歌謡を綴り合わせ編集しなおしてまとめたようです。四番の(兄ちゃん鉢巻 姉ちゃんは櫓で又、六番の(着すりやお神酒を 御饅頭も出るそなたの様に面白く楽しくするために今の歌詞(六番まで)にしたそうです。今回は、阿島区より二本の櫓(長さ約三・五m)を寄進していただき「根回し」の行事を行い、御柱祭の数日前に山出しを行いました。

当日、二本の御柱の頂きに幣を縛りつけ、県道の千代橋と逢橋の近傍に御柱を設置して花火を合



北明神社 御柱の曳行

執筆にあたり、喬木村誌及び故林清夫氏の「明神社の御柱祭」北自治会の資料を引用させていただきました。

これからの子供達の将来が平和であるために…。(平和学習会実行委員会)

喬木中卒業60周年

“記念植樹の思い”

喬木中卒業生 原 光一郎

「鳥櫻として鳴き、幽谷より出て喬木に遷る…」これはご存知の村銘の謂れであります詩経の一節です。私達は昭和十六年、太平洋戦争の始まる年に生を受け、戦後の困窮の中で学び、やがて小さな【学び舎】を出でて、広い世を渡り必死に働き、櫻櫻として鳴き、大切な友や伴侶を求め、生活の基盤を築いてきました。云ってみれば日本の繁栄にすら少しく寄与したと思っ



記念植樹にて 5組のみなさん

てきた故郷喬木が「大きく、喬く・聳える」と云う願いも込めて植樹を致しました。『メタセコイア』と云う木は恐竜が生きた時代からの化石の木と話題にもなりました。 紅葉喬木で秋には見事な紅葉が楽しめる大木になる様です。 運動公園の最も北側、児童公園の北縁で子供達の響く歓声を高い梢から見つめていたいと思います。

私は、四月二十九日に大阪で開催された第六十四回全日本都道府県対抗剣道優勝大会に出場してきました。この大会は、先鋒高校生、次鋒大学生、五将三十五歳未満の社会人、中堅教職員、三将警察官、副将三十五歳以上の社会人、大将五十歳以上剣道教士七段以上と、七人制の団体戦で、私はその六番手の副将で出場しました。第六十一回大会にも出場しており、三年ぶりの出場でした。

第六十四回全日本都道府県対抗 剣道優勝大会に出場して

熊谷 伸 昭



出場の熊谷伸昭さん

前回は、出場したときはかなり悔しい思いをしましたので今度こそという気持ちで大会に挑みました。大会結果は、一回戦がシード、二回戦に優勝候補の福岡県と対戦しました。チーム戦績は〇勝四敗三引き分けで負けてしまいました。私個人の結果としては面を先取されましたが、そのあと面を取り返して引き分けでした。 目標にしていた全国大会

での一勝を果たすことができずでしたが、今回最低目標にしていた、全国大会で一本取ることができました。結果は残念でしたが大きな収穫があった大会でした。

去年は六段に合格、今年剣道の称号をいただくことができました。この剣道のできる環境を与えてくれた喬木剣道クラブの先生方、子供達、そして家族に本当に感謝しています。

今、剣道クラブは段々と剣道を習いに来る子供が増え賑やかになってきました。これからも皆様に良い報告ができるように頑張っていきたいと思います。応援ありがとうございます。

お知らせ「高登」特別展 開催中

喬木村出身の名力士 高登

県内出身力士の御嶽海の活躍により南信地域でも相撲熱が高くなってきています。今回村出身の「高登」の特別展示を企画しました。喬木村史に残る偉人の功績を写真や遺品により紹介する特別展示です。相撲ファンのみならず多くの皆様のご来館をお待ちしております。

場所 喬木村歴史民俗資料館 ロビー
日時 9月29日(木)まで
開館日 火・木・日曜日 9:00~16:00 ※入場料無料

喬木村教育委員会・喬木村歴史民俗資料館
お問い合わせ 0265-33-2002 (喬木村教育委員会)

たかぎ短歌会 水無月歌会詠草

西伊豆の海に向かい立つ吾にはほ強く打つ戸田の潮風

桐原 邦夫

艶の良き小梅を数多収穫す今年は毛虫を見ることもなく

木下 寿子

木洩れ日の窓辺に揺るる茶の間に仕種床しき蟻と想ふ

知久 美子

朝あさに定位置に立ち深呼吸 青葉の風が頬なげ通る

小椋 りよ

昼植えし千本の瓜苗も活き着かむ静かに降れる夜半の雨音

内山 和子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

夫の肩「腱板断裂」として手術せり今年の稲作不可能となる 元島 康子

七月三日(日)、分館対抗女子ソフトバレーボール大会が中央社会体育館と中学校体育館を会場に開催されました。十二分館から十七チームに参加いただき、各分館が練習の成果を發揮し、白熱した試合が繰り広げられ、若い人から年輩の方まで一緒に楽しむ大会となりました。結果は次のとおりです。

中央社会体育館会場	中学校体育館会場
優勝：南B 準優勝：伊久間B 3位：田上川	優勝：富田 準優勝：伊久間A 3位：南A

優勝 南分館Bチーム

優勝 富田分館

編集後記

七月一日は、「半夏生」。最近分かったのだが半夏生という草がある。庭のすみにこの時期になると五十cmぐらいの高さで、先の葉が白くなり、その後その先から穂先の様な物が出て、それが花らしい。

昔からあったのでたの雑草かと思っていたが名前が分かってからは何かうれしい。

今年も伸びてきている。これから、本格的に暑くなってくる。タコでも食べるか。(苗がタコの足のようになり根がタコのように太くなる。)

平成28年度 分館対抗女子ソフトバレーボール大会

七月三日(日)、分館対抗女子ソフトバレーボール大会が中央社会体育館と中学校体育館を会場に開催されました。十二分館から十七チームに参加いただき、各分館が練習の成果を發揮し、白熱した試合が繰り広げられ、若い人から年輩の方まで一緒に楽しむ大会となりました。結果は次のとおりです。

優勝 南分館Bチーム

優勝 富田分館